

これらの学問をするに、いずれも西洋の翻訳書を取り調べ、たいいていのは日本の仮名にて用を便じ、あるいは年少にして文才ある者へは横文字をも読ませ、一科一学も実事を押え、その事につきその物に従い、近く物事の道理を求めて今日の用を達すべきなり。右は人間普通の実学にて、人たる者は貴賤上下の区別なく、みなことごとくたしなむべき心得なれば、この心得ありて後に、士農工商おのおのその分を尽くし、銘々の家業を営み、身も独立し、家も独立し、天下国家も独立すべきなり。

学問とは、ただむずかしき字を知り、解し難き古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を言うにあらず。これらの文学もおのずから人の心を悦ばしめずいぶん調法なるものなれども、古来、世間の儒者・和学者などの申すよう、さまであがめ貴むべきものにあらず。古来、漢学者に世帯持ちの上手なる者も少なく、和歌をよくして商売に巧者なる町人もまれなり。これがため心ある町人・百姓は、その子の学問に出精するを見て、やがて身代を持ち崩すならんとて親心に心配する者あり。無理ならぬことなり。畢竟その学問の実に遠くして日用の間に合わせぬ証拠なり。

されば今、かかる実なき学問はまず次にし、もつぱら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。たとえば、いろは四十七文字を習い、手紙の文言、帳合いの仕方、算盤の稽古、天秤の取扱い等を心得、なおまた進んで学ぶべき簡条ははなはだ多し。地理学とは日本国中にはもちろん世界万国の風土道案内なり。究理学とは天地万物の性質を見て、その働きの知る学問なり。歴史とは年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索する書物なり。経済学とは一身一家の世帯より天下の世帯を説きたるものなり。修身学とは身の行ないを修め、人に交わり、この世を渡るべき天然の道理を述べたるものなり。

一 本文をよく読み、約二百字で的確に要約しなさい。

二次の漢字の読み仮名を書きなさい。

日輪	威光	恥辱	棄てる
奉公人	縛る	肝要	費やす
算盤	賢人	愚人	世帯
貧富	相違	翻訳書	身代
万物	趣意	有様	富貴

三次の文をわかりやすく現代語に訳しなさい。

① されば賢人と愚人との別は学ぶと学ばざるとによりてできるものなり。

② されば今、かかる実なき学問はまず次にし、もつばら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。

③ すなわちその分限とは、天の道理に基づき人の情に従い、他人の妨げをなさずしてわが一身の自由を達することなり。自由とわがままとの界は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にある。